不定期刊行　　第 527 号　2014.11.20

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
大町高等学校

## 中信安全登山研修交流会・・・今年のテーマはＦＡ

今年の安全登山研修交流会は、10 月 31 日から 11 月 1 日に大町北高校で今滝先生を講師に行われた。テーマはファーストエイド。各校（各人）平素の山行で持参するファーストエイドキットを持ち寄り、比較した上で、基礎知識の講義を受け、基本的な処置について学び合った。

我々は生徒を引率する上で、24 時間体制でことに備えている。しかし、実際目の前で事故や病気が発生した時、何ができるだろうか？ファーストエイドとは「適切な医療処置を受けるまでの補助的な手段」である。そして、その目的は「傷病者が重度の緊急事態にあるかどうかを適切に判断し、傷病者の痛みを取り除いてあげること」だ。山という不便な場所におけるファーストエイドでは初期段階でどのような見立てをするかも極めて重要な要素だ。そしてその判断の後、どのように処置するべきなのか？生徒を引率する顧問として知っておくべきことは何であるかをということを今滝先生に講義を受けたのち、研修しあった。実習では、前腕の骨折を想定してワークショップ形式で、一連の動きを経験しながらギプスシーネを作って固定するまでの方法（写真参照）を学んだ。タオルにギプス包帯をシーネの長さで折り返して敷きつめ、それを患部にあてて、伸縮包帯で巻くというのがその作成方法の一切だ。作り方も比較的簡単な上に、副木などに比べて極めて有効なこと、ギプス包帯自体山への携行にも苦にならないこと、その他にはタオルと水と伸縮包帯があればできることなどを身を持って体験することができた。一度やっておけば実際の場でも問題なく作れるだろう。

シーネ+αの長さのタオルの上に水につけたギプス包帯をシーネにしたい長さで折り返して敷きつめる。

タオル側を内側にして固定したい部分に当て、伸縮包帯で巻きつける。15 分もすれば固まる。

出来上がったシーネ（腕の形状になっている）

研修のあとは、メインの交流会。今年は高校の顧問の他に山岳センターの杉田さん、傘木さんも参加されていたので、センターでの高校生向けの講習会のあり方などを巡って意見交換をした。話の中で、来年はセンターと

もタイアップして、高校顧問を育てるような講習会が企画できないかということや、従来センターで行ってきた二つの高校生講習会のあり方などについて踏み込んだ議論がされた。

2 日目は予定では、外に出て搬送などの技術訓練の予定であったが、雨降りだったので、室内で簡易ハーネスを使った引き上げに絞っての訓練とした。こちらは、8 月に山岳総合センターで行われた講師研修会の伝達講習ともいうべきもの。高校山岳部の引率で事故が起こった場合、限られた装備で対応するにはどうしたらよいかということを研修した。120 ㎝のスリングでチェストハーネスを作り、メインロープの末端に 2 つの輪を作り、オーバーハンドノットで固定し、レッグループとし、それを連結して引き上げるというものだった。シンプルな形だが、使い勝手は良さそうだった。一つの技術として知っておいても損はないと思った。

## 思いがけず雪山・・・大町高校 11 月日帰り燕山行

大町高校山岳部は、11 月は 2 日～3 日に来年度の下見で湯の丸山に登った。天候もまずまず、夜は焚火に興じ、山の文化とばかりに山の歌を歌いつつ（これは小生と松田さんが盛り上がっていただけかもしれないが）、楽しい山行であった。

雪が来る前にもう一度近場の山に登りたいという希望があったので、16 日に日帰り山行をしようと燕岳登山を計画した。山岳部は毎週火曜日に定例のミーティングを開いているので、11 日のミーティングで計画を具体化した。蓮華岳くらいまでは白くなっていたが、その日はピーカンで燕方面にはまだ雪の「ゆ」の字もなかった。これなら秋の陽だまりハイクが楽しめると、予て一緒に山に登りたいと言っていた養護の先生にも声をかけた。ところが、その翌日から寒気が入り込み、水曜日から 4 日間北アルプスは黒い雲に覆われたままだった。燕山荘のＨＰでは小屋前で 50 ㎝の積雪と書き込まれていた。

そんな状況の中、16 日日曜日生徒 5 人とともに中房温泉から燕にアタックした。8 時 30 分、中房を出て、しばらくすると雪が出始め、第 1 ベンチあたりでは踏み固められた雪がカチカチに凍っていた。北アルプスで営業している小屋は燕山荘のみということもあってか、登山者は多いのだろう。昨日小屋で泊まった登山者が思った以上に下りてくる。第 2 ベンチで一本取り合戦小屋に到着したのは 11:00 過ぎ。天気は上々で、富士山もばっちり。合戦尾根に出ると、尖塔を空に突き上げた槍ヶ岳がくっきりと見え、一同歓声を上げる。12 時燕山荘に到着。西の方から天気は下り坂の様相。夏とはすっかり趣を変え雪をまとった頂上を目指す。稜線上は西からの風が吹いていた。しかし、我が生徒たちは怯むこともない。途中で、山仲間とやはり日帰りで登って来たという前大町高校顧問の小沼さんとすれ違った。

12:35 燕岳山頂着。恒例の山岳部歌を歌い、登頂の儀式を済ませる。夏に歩いた裏銀の縦走路も、その時悪天で登れなかった槍ヶ岳もみな今日ははっきり見渡せた。13:30 燕山荘発。下りは、雪の中を駆け下り、15:30 無事に中房温泉着。温泉に浸かって心も身体もほっこり。